

# 紫 筒



總會特集号



# 11月26日に総会



## 紫笥 第6号 目次

- ◆ 総会のお知らせ / 2
- ◇ あいさつ / 稲崎修平 / 3
- ◆ あいさつ / 皆葉 賢 / 4
- ◇ 会計報告 / 西岡 弘 / 5
- マッキンレーの日記 / 寺谷昌恭 / 6
- ▶ レスティングルーム / 8
- 文京会のいろいろ / 中西啓之 /  
田崎謙一郎 / 滝谷敬一郎 / 大橋和子  
10
- ◇ 十字路 / 中村 弘 / 小松俊夫 /  
松本素直 / 中山喜義 / 富田 宏 /  
太田英博 / 諸橋 肇 / 13
- ▷ 消息不明者欄 / 21
- 編集後記 ■ 24

# 総会のお知らせ

下記要領により同窓会総会を開催致したいと思いますので万障お繰りあわせ、多数お誘いあわせのうえ、御出席下さい。

記

日時／昭和36年11月26日（日）午後1時～4時

場所／茗溪会館（地下鉄茗荷谷・都電都バス教育大前下車）

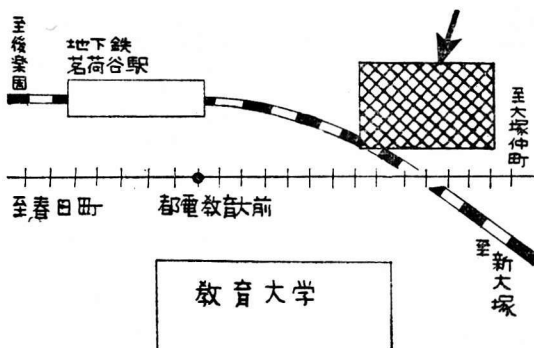
会費／200円

東京都立文京高等学校長（名誉会長） 稲崎 修平

東京都立文京高等学校同窓会長 長谷部 信

お元気ですか。3年ぶりに総会が開かれます。同窓会もこの3年間に千名もの新会員を迎え、4千人もの大世帯となりました。また母校におきましても、校舎増築・プール建設・校地整理等が行なわれましたし、また行われています。完成のあかつきには文字どりの「文化の都」となることでしょう。

さて今回に総会は今迄とはちと趣向を変えて、母校の外で行います。また形式も映画演劇のアトラクションはありませんが、ティーパーティ形式をとり、お喋りはふんだんにしていただけるようになっております。また今回からは会



費をいただくことになりましたが、それ相当、いやそれ以上の茶菓をお出しするつもりですので御期待のほどを。

では11月26日をお忘れなく。 (企画部)



## 学校の近況

稲崎修平

昭和三十八年からの高校生徒急増対策として、本校は一学年九学級募集となる。従つて不足する教室、従来なかった管理室、特別教室としての視聴覚教室など計十二教室分と、旧館と新館とを結ぶ渡廊下が、この際一挙に増築されることになった。増築校舎は、現在の図書館に接続して西側に三十数米延ばして、四階建となる。着工は九月、設工は明年三月。これと同時に現在の図書館の内外の改装模様替えも行われる。そこで室の配置は、図書館の一階は、衛生室、生徒指導室、用務員室、二階及び三階は普通教室二つづつ、増築校舎は、一階は玄関、事務室、校長室、二階は教員室、会議室、三階は普通教室一、放送室、視聴覚教室及び準備室、四階は図書館（三教室分）となる。渡廊下は旧館のほぼ中央現在の玄関から新館に連なり、二階までその屋上も使用できる。学校の正面玄関は、現在の図書館と、新増築校舎との接する所で、校門を入れて椎の木と図書館との間に、建物ぞいに新に設けられる道路によって通ずることになる。又折戸通には校門と土坡の建設中で近くでき上り校庭周囲も全部ブロック塀に近く着工される。多年懸案になっていた大塚中学校舎の撤去は一昨年実現し、その跡

はりっぱに整地されて、現在バレーコート三面、テニスコート二面となつて使用されている。今回の増築によつて、本校々舎の全体系が一応完成し、環境の整備も一段落ということになる。たゞ現在の体育館兼講堂は、三十八年からの生徒定員一、三五〇名を収容することはできないので、遠からず改築しなければならぬと思う。

よい教師、よい校舎、よい教育が、わたしの目標である。よい教師とよい校舎（或は環境）とが相まって、よい教育が行われると思う。そういう意味においても、施設の充実することは、喜ばしいことである。

同窓会館の建設ということも考えてみたが、そういう機運はまだ見受けられない。将来の問題であろう。たゞ増築完成後は、いく分校舎にも余裕が生ずるので、同窓生諸君の会合等には、便宜をはかることができることゝ思う。同窓生諸君が絶えず学校を訪れ、教師や、在校生徒との親しい交りが続けられるならば、これほどうれしいことはない。学校が同窓生親睦の場として、大いに利用されることを希望している。

（文京高校校長）

## 同窓会の課題

皆 葉 賢

同窓会に与えられた最も大きな課題は、言うまでもなく「会員相正の親睦」を深めるための活潑な運動であるが、そのためにそう言う気運が会員から盛り上って来るのを待つべきか、それとも幹事会の方から積極的に働きかけるのが正当か。無論、前者の盛り上りのために幹事会が色々と働きかけるべきだと思ふ。

して、そのための方針(目的)として『合理的な集団意識を育て、その集団の一人一人を個人として尊重しながら、しかも集団の仕事において協同の実績をあげる「つまり、文京の門から飛び出した諸兄弟一人一人が各々の社会で活躍して貰うべく、或は活躍しやすくするための「より密接な」「より信頼出来る」一つの集団(本同窓会、そして各会社内での同窓会)を作る』をかゝけて、同窓会は会員の、そして次々巣立って来る後輩のための橋懸とならねばならぬ。

各幹事はその方針(目的)にそうべく「総会」を催し、また編集しなければならぬのが「紫笥」である。他方、各社会に活躍の会員諸兄弟は、同輩のために、そして次々と巣立って来る後輩のためにも、その「総会」「紫笥」を利用すべきだ。

現在、会はその方針(目的)遂行にあたりその一年の年収の五割(本年は拾万円)をその年の活動資金とし、残り五割を貯蓄しているがために、非常に苦しい毎年の過している。

しかし、その貯蓄から、将来永遠に次々と巣立って来る会員によって、全会員のために、同窓会活動が活潑に出来ることを確信している。

我々幹事は、その将来の同窓会の姿を勝手に夢見ながら、この瞬間とも云うべき一年の責務に、寸暇を見出しながら精を出している会員諸兄弟には、前途多難であるう文京高校同窓会に、今後共、多大なご協力を期待します。

(同窓会副会長)



# ■ 会計報告

東京都立文京高等学校

## 同窓会会計報告書

昭和35年4月1日～昭和36年3月31日の間

会計次の通りです

昭和36年4月1日

委員長 長谷部 信印  
会計 西岡 弘印

監査の上、正確であることを認証します

会計監査 末 正 明 印  
若林 百合子 印

### 1. 財産目録 (36年4月1日)

#### イ. 金銭 (419,766円)

貸付信託 200,000円  
現金 219,766円

#### ロ. 物品

葉書印刷機 1個  
書類入れ 1個

### 2. 収支

(収入) 584,373円

寄付 (広告代) 12,400  
入会円 190,800  
利子 17,550  
収入 22,700  
前期 (繰越) 340,923

(支出) 164,607円

運営 35,117  
会報 77,320  
發送 29,855  
事業 22,315

(収支残)

584,373

— 164,607

419,766円

## 会計について / 西岡 弘

同窓会は会として活動し、しかもその活動を発展させていかねばならない訳です。そこで会計面からその財源を考えてみますと、基本になるものが、入会金です。ところが、入会金は毎年一定であるのかかわらず、会員数は年々増加の一途をたどり、最大会員数は将来2万人を若干越すのではないかと思われま

す。このため会としては、入会金の半分を積み立ててその利子により将来の増加支出をおぎなおうとしているのです。それが財産目録の貸付信託となつてあらわれています。それにしても、積立金がすくないではないかと不審に思われると思いますが、会として組織だったのが5年前で当時は入会金が300円で2割の積み立てだったというような訳だからです。

さて収支の項に移りまして、収入は、ダンス講習会、パーティによるものです。支出のうち、運営には各種会合、経営的の事務手当、事務×費が中心です。会報は4,100部製作に要した費用ですが、会員川上光男氏のご援助を印刷、製本関係で負うところが大きいです。發送は会報發送代で、事業は、ダンス関係が大半をしめています。

終りに本年度をふりかえてみました、十分な活動に要する費用としまして、経営的に考える予算としては、不十分であります。まして人件費、物価が上昇、最も影響の大きい郵送代の値上げをみました今日、同窓会、会員諸氏の絶大なご援助をみないことには、昨年行ないました行事にも及ばない活動しか財政的にできないこととなりました。

# マッキンレーの日記

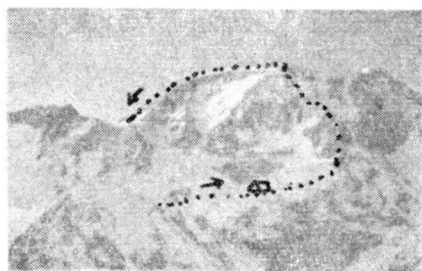
私達は数日前からマッキンレー南面の氷河上に第三キャンプを張り南壁登攀のチャンスをおうかがっていた。

五月十四日、快晴、風無し、朝六時私と今村、鬼頭と菊島がロープで体を結び合った。急斜面の氷河を登って岩稜に取付く。まだ日は当らず寒い。ヤッケを着て、毛糸の帽子を目深くかぶった。岩の尾根を暫く登り左手の蒼水のルンゼを慎



重に横切った。ステップを切りながら約三百米下の第三キャンプが足の間から見下ろせる。そして又岩登り。傾斜は四五度から六十度。更に傾斜がきつくなると左手のルンゼをトラバースして難場を避

けては直登した。十一時広い岩のテラスに出た。ここで昼食。パン、ジャム、チーズとテルモスの紅茶。廿分休んですぐ出発。これまでよりはやゝなだらかな登りとなる。



## 寺谷 昌恭

とかく高度の影響から急いで登るとすぐ息が切れて動けなくなる。ゆっくり休まず登る。時々下を振りむく。約二千米下に白く光ったカヒルトナ氷河が南の樹林帯の縁の中に溶け込んでいる。

そのはるか南にスジトナ山脈がブドー色にかすんでいる。海は見えない。やがて私達の登っている岩稜は狭くなって雪の斜面に消えてしまう。午後四時である。雪面の上は頂上に続く稜線である。が大きな雪庇が南面に張り出してこっから真直ぐ登ってもその雪庇は乗越せない。下手すれば雪庇もろともカヒル





トナ氷河へ落ちないとも限らない。左手の別の岩稜に取付いて上の稜線に出るより方法がない。こゝで茶島が頭痛を訴え、もう歩けそうもないと弱気な事を言う。休んだら回復するだろうと一時間の大休止。左の岩に取付く

ために、広い雪の斜面を横切る。雪は堅雪。水でなかったのは幸いである。ゆっくりとしかし確実にステップを切りながら進む。ピッケルで雪をくたくと雪片はカラカラと乾いた音をたて、下の氷河へ落ちていく。いつの間にか雲が湧き、夕日で雲海は橙色となる。風が出て寒くなる。午後九時最後の稜線は約百米上にある。菊島はまだ苦しそうだ。私達も疲れた。止むを得ずこゝでビバーク。岩壁の中間だから平らな場所はない。岩に腰を下ろしナイロンの布を頭からかぶる。足は布からはみ出して指先は感覚が無くなる。布は風にあおられてメタカ炊いてもすぐ消える。ローソクで暖をとる。白夜ではあるがこゝは南面だから薄暗い。

五月十五日、晴、風強い、朝六時出発、小一時間登って最後の稜線に出た。高度一九、六〇〇F.T. 稜線に顔を出したとたんに猛烈な北風に見舞われた。頂上は右手に輝いていた。

私達は南壁登攀の成功に軽い興奮を覚えながら、サポート隊の待っているデナリ・パスへ強風の中をよるめきながら下っていった。

(旧三期早大OB)

- ◎神田で伝統と信用ある店
- ◎一冊でも御利用と御用命下さい
- ◎本校創立当時より御指定

(図書館並に教科書納本)

{ 新刊一般書・中高大教科書納本・和漢洋  
全集・双書・美術書・その他売買 (御報参上) }

## 大 雲 堂 書 店

東京都千代田区神田神保町1丁目9番地  
都電(渋谷⑩新宿⑪早稲田⑫行)停留所前  
電 話 東 京 (291) 1 6 1 5 番

## 文

京自治会 昨年はわりあい活発だった  
 そうな、今年にはいと又逆戻り、一昨  
 年も不活発だったので、どうやら自治会の活  
 動は、周期的に活発になったり不活発になっ  
 たりするものらしい。

☆自治会が不活発なのにも拘わらず、生徒会  
 費の方は、今迄一ヶ月五十円だったのが、一  
 挙に八十円に値上げ、池田さんの「所得倍増」  
 にならったわけでもないだろうが、それにし  
 ても六割の値上げは大きい、生徒の方は「支  
 出倍増」で不満顔。

## そ

れにつれて各クラブの予算も大幅にベ  
 ースアップ、ここで二、三クラブを紹介  
 すると野球部では今年八万円の予算を獲得  
 してニコニコ、新型のバット(プロ野球で使  
 っているような、テッペンのをえぐれているバ  
 ット)を仕入れて、張り切っている。その為  
 でもあるまいが、昨年迄は、一回戦敗退組で  
 あったが、昨年あたりから、一回戦は勝つよ  
 うになった。これからも一回戦は確実にモノ  
 にできる様子、これというのも生徒会費の値  
 上げのおかげ?……

もう一つクリン・ヒットを放ったのが  
 「書道部」『台東展』に出品して見事都知事杯  
 と区長杯を獲得、字がきれいになりたい方は  
 どうぞ書道部へ。

サッカー部では、六月から数回にわたって  
 OBチームと対戦、OBチームといっても今  
 年度卒業したばかりの『OB一年生』といっ  
 た所なので、まだまだサッカー部にはひけを  
 とらない。対戦成績はOBチームの三勝一  
 敗。

## 秋

ともなると三年生は受験勉強におおわ  
 らわであるが、こちらは二年生は男子ク  
 ラスのF組、夏休みを利用して、八月五日から  
 十五日迄、浅間山麓で『合宿』朝は六時から  
 起床、それからラジオ体操をして食事、午前中  
 に百分授業二時限、昼食後一時限、七時から  
 九時迄が自習、これが毎日の課業、猛烈なF I  
 G H Tである。十日間で、しめて五千円也、  
 付きそいの諸先生は、担任の磯野先生(数学  
 担当) 横山先生(同) 田中先生(国語担当)  
 小田切先生(英語担当) 他のクラスの生徒の  
 中には「何も二年の時から……」と批判的な

見方をする者もいたが……果してどうか、再  
 来年の大学入試には大きな気望が持てそうで  
 ある。

## 男

子組といえば、「男子組にいる者は、女  
 子の気の全然ない所で勉強してつまらない  
 のじゃないか」とお思いになるムキもござろ  
 うが、そこはそれ、男の気安さというか、「女  
 子がいると男というものはとかく自分を飾り  
 たがるもので、そうなると、本当に話会える  
 友人というのが限られる」そうである。男子  
 クラスにいるもので男女クラスに移りたいと  
 いうのはごく稀、女子をゲキタイするわけ  
 はないが本当に「男子だけ」というものは良  
 いらしい、「これからもズツと残すべきだ」  
 との意見が多々ある。尤も、男女クラスにい  
 る男子の「声なき声」は聞いていないが……  
 ☆以前、図書館の隣にあった学校、二、三年  
 前までは大塚中学や、西果鴨中学が使用して  
 いたが、校舎が老朽化した為、これらの中学  
 は他へ、立派な校舎を作って移転、そのあと  
 の建物をとりこわし、今ではきれいに整地さ  
 れ、囲りを金アミで張りめぐらし、中にテニ

スコート一、バレーコート二、バスケットコート一を設けてある、ところが最近、このグランド使用について都から「まった」がはいった「都で整事しへはいけない」というのを、学校側で、勝手に工事をしてしまったから」と云うのが都側の言い分、この結末どうなることやら、早く解決しない事には、新学期も始まった事だし、生徒も困ってしまふ。

☆これより半年程遅れて校門の建て直し工事が行なわれた、今迄の校門には片側に「東京都立文京高校」ともう片方には「東京都豊島区立大学中学校」と二つの「看板」？が掲げられていて、門も石の柱に、鉄柵、と少々質であつたのが今度は、ずっとスマートに衣替えした。

**教**室が増え、グラウンドが大きくなり、門が改築されて、我が母校も表面は非常に立派になった。ここでもう少し、食堂の方も増築されたら申し分ないのだが……最近、それでもパンの売り場と食堂と分離したので、以前よりは暖かされたが、まだまだ混雑する。ラッシュ時は朝の国電なみで、自分の注文し

たものをとるまでが大変、やっと手に入れても今度は座る所がなくて、食物を手になどろろするばかり、こちらの方も早急に解決しないと、これから先、生徒の数も増えることでもあるし……

**食**堂の次に気にかかるのが体育館、運動場に面した方の窓ガラスは、野球部の打った球で上の方が穴だらけ、中は、と云うと、バスケットの試合をするときラインが柱迄ギリギリい、ばいなので端の方の見物人は、ボールが反対側の端に行くと、身を乗り出して観戦、体を前後して、見物人の方が「良い運動」

☆今年卒業したクラスの変わり種を紹介しましょう。E組（担任長谷川先生）は、毎月二回、第一と第三土曜日に、クラス会を開いている。出席者数は、一回、二回……と、段々減少しつつあるが、それでもやる意志はなさそう、かってD組（今年卒業）が、やはり毎月、第一土曜日にクラス会を開いていたが、浪人が幹事をしているので幹事が「勉強にいそむ為」という理由でとりやめにした例が、それにしても良く続くもの。

**今**年の文化祭、体育祭は、十月の十二日、十三日（文化祭）十五日（体育祭）でしたが、例年より予算がグンと多く、内容の充実したのが見られ、特に仮装行列には興味が持てた、リバイバルチームでもあるまいが、昨年、今年とも原始人等が登場している。

書籍のお求めは  
富田書店へ

中野区大和町147  
TEL (385) 8968

富田 宏 (新8期)  
郁代 (新8期旧姓中野)

# 「文京会」のいろいろ

文京の同窓生もいまでは四千五百人ほどいます。広い広い社会のなかにも、この四千五百人のうちのほんの一パーセントにもみたくない人々のサークルがたくさんあるはずですよ。今号はその一部分を紹介しましょう。来号からもこれが続けていきたいと思えますので、サークルを作っている人々には編集部までお知らせ下さい。

## 二ヶ月に一度コンパを

駒場文京会

### 中西啓之

念願かなって今年の四月に発足しました。我ながら良い名前をつけたものだと感心しています。入会資格(?)は文京出身者で、駒場の丘(東京大学教養学部)に登りし者という敞しい(?)もの。全東大的組織にはなっておりませんが漸次そのような方向をとるでしょう。別に「活動」というほどのことをしようというつもりではなく、二ヶ月に一度位

なにぶん、女性が払底しているもので、意気はさっぱり上がりません。女性のみのグループがありましたら、どうか当会へ。  
現在のところは、右の状態ですが、とにかく駒場においては、他にくらべると、顕微鏡でなければ、見えないほどの小人数ですから将来は、せめて、肉眼で見えるくらいの会員数を持ちたいと願っています。多数の新会員をお待ちしています。

では最後に、駒場にて、我が文京の名を轟かす一騎当千の士を御紹介しましょう。

三十四年卒

小笠原紀利(文科二類二年)

コール・アカデミー所属。御存知のようにこれは、第一流の合唱団です。

根岸 秀夫(理科二類二年)

合気道部所属。小粒だがピリリと辛い。

田巻 正彦(理科一類一年)

残念ながら不明です。

三十五年卒

有島 清(文科二類二年)

心理学研究会所属。「学園」編集長。学友会理事。駒場有数の実力者。

池宮 賢治(文科一類一年)

バトミントン部、旅行研究会所属。(これは



一番女性の多いサークルです。

杉本 安弘(文科一類二年)

東大教養学部新聞会所属。広告取りのうまさ  
は超一流。

松本 隆(理科二類一年)

奇術愛好会所属。あんまりうまくなりそうも  
ない。

中西 啓之(理科二類二年)

日本文化研究会箏曲部、映画研究会所属。

「箏」とは、琴のことです。(なかにし)の  
りゆき・新十二期)

## 卒業生も連絡を

一橋文京会

田崎謙一郎

我が一橋大学に、このたび文京高校の同窓生の会が結成されたことを、同窓生の皆さんにお知らせしたいと思います。

一橋大学は都下国立町にあって、学園都市として全国的に有名なように、その環境のすばらしさは、四季を通じて変化する毎に、私達の認識を新たにさせます。

その大学に文京卒業生が十三人もいながら知らぬふりをしているのは全くおしい……

結成に当っては、後期の方では越中谷さん(社会学部四年・十回卒)と前期の方では私が主になって準備を致しました。

最初は新入生歓迎コンバの形で催されたのですが、これを機会に、一橋に於ける文京同窓会を結成し発属させてゆこうということになりました。

現在、在校生は一年三人、二年三人、四年七人の合計十三人で数としては決して少なくはありませんが、連絡の不徹底で七人しか集まらず、盛会とは言えなかったのは残念でしたが、次回からは全員集まれるようにしてゆきたいと思っています。

なお四年生は今年限りで卒業しますが、卒業後も連絡をとり続けることになっているので、将来は増々大規模な会になってゆくものと期待しております。

またすでに一橋を卒業された方でもひまのある方は、次回コンバの時には招待したいと思いますので、私まで連絡して下さい。

(住所) 豊島区西巢鴨三ノ八二六  
(たさき) けんいちろう・新十二期・社会学部二年)

## 親切な先輩

東北大文京会

滝谷敬一郎

仙台——それはハイデルベルヒにも喩えらるべき杜の都です。『雑沓の都』東京に飽いた我々は、この静かな伝統ある小都市で毎日を楽しんで送っております。

遠く東京を離れておりますと、家庭に代って、我々を支えてくれるのは実に友人なのです。我々の間では文京出身生同志の結びつきも強固で、私の如きは受験の世話から合格後の下宿の世話、果てはアルバイトまで全て先輩の力を借りました。教科書も先輩より代々という訳です。まるで親子の関係です。

在仙同窓生は十数人で、皆東北大生です。その中には、本学落語研究会会長、庭球部副主将、ボートでローマ五輪に行った先輩など第一線に立って活躍しております。彼等文京紳士は品行方正、学力優秀で私は後輩として力強い限りです。

ところで仙台でブンキョウと言えば案外知

っている人もいるのです。受験の時「三本白線」をかぶっていたら「文京か」とよびとめられたほどです。

同窓生みな下宿をしておりますが、我々にとって下宿は存在にかゝわる大問題(?)です。下宿を数度変えた未再び始めの下宿の戻った豪傑や、メッチェンの居る下宿から逃げ出した先輩等様々です。(遠く明治の昔から大学生は良きメッチェンの居る下宿を狙ったものだそうですが。)これ等は下宿生のみ知る悩み(?)です。さて私は……御多分にもれず、居心地悪しからぬ処に居ますから御心の程を。

まったく仙台によい所です。

(きたたに けいいちろう・新十一期・理学部)

## 庶民性が象徴

### 第一生命文京会

## 大橋 和子

『文京会』これは文京高校出身で第一生命に入社している人の親睦の会である。

わが社の中でも、同じ様なものを他の学校の人達も作っており、決して珍しいことではない。けれど私達の会はこういう会にありがちな名目だけの会とは少々異り、その内容は非常に親密で一口に言えば兄弟姉妹の会と、言った方がびつたりする。

これも発足当時の幹事、歴代の幹事の努力と、会員一人一人の協力があって育てられたものである。学校を卒業して何もわからず社に入社した時、はじめに暖かく迎えてくれるのも、この会である。三十四年に発足し、その当時は十名程だったが、毎年会員を迎えて、現在では二十四名に達している。会員自身が若いということから、活動は非常に活発で、普通の会にはみられない独特の味が出てくる。幹事は一年毎に次期会員に引継がれて行く、年中行事として決っているものと言えば、四月に新しい会員を迎えて行う新人歓迎会位で、あとはすべて会員の希望とその時々幹事の企画によって、予算とも考慮の上で行われている。皆の気持よくまとまっているの、非常におもしろい企画が出てくる。会員の提案は可能な限り、たいがい実行される。これは会がまとまっていることを現わしていると共に、この会の特色である。今まで

行われたもので主なもの、上げると、歌舞伎座にて、『ジラノド・ベルジュラック』の観劇、後楽園へスケート、また最近では、会社の厚生施設を利用して、逗子へ一泊、今年の新人歓迎会は『お好み焼き屋』に行つたことなど、こすな所もわが会が非常に庶民的で親しみやすく、誰でもがすぐに会になじめる雰囲気であることを理解していただけると思う。

同じ学校で育てられ、数々の思い出を持つた者同志の集りは、話題も豊富で楽しいものである。学校の繁栄と、会社の進歩に伴ってますます大きく発展してゆくであらう。

(おおはし かず子・新九期)



## 十字路

時は人を待ってくれない。  
人も絶たず変化していく。  
人は一体何を考えているの  
だろうか。

## お芝居とヨット

中村 弘

多くの文京高校生活は、どうしても劇研に  
ふれなければなるまい。

もつとも、ほく自身演劇なんぞに大して興  
味もなかったし、今もない。中学時代から、  
高校二年までは物理部の人間だった。それに  
大学も工学部に入ろうと真げんに考えてい  
た。それが劇研に人ったのは、当時の劇研に

は、文化団体というより運動部的なムードが  
あったこと、悪友達のミ力のせいだろう。

だから劇研を通してプラスになったこと  
は、良き友を得たことだけだろう。(更に加  
えるなら女房も得た)とにかく、浪人もつき  
あってくれたし、同じ大学にも入ってくれ、  
互に手をとり、もう芝居はやるマイと誓いな  
がら、やがてすぐ芝居をやられ、今に到る  
まで月に二、三回は会っている。他人が見た  
ら兄弟ではない。おまけに、泊りがけで旅行  
のときは、彼等に女房のおもりを頼み、頼む  
方も頼む方なら、頼まれるヤツもあきれたも  
んで、十二時、一時までどんちゃんさわぎな  
んだからいやになる。

ということとは別に、それなりに楽しん  
だくせに、どうも演劇部とか文学部は氣にく  
わない。ほくの妹が、兄貴に似たのか中学時  
代から演劇部に入り、学芸会や文化祭でさわ  
ぎまわっているのを見ると「あんなの不良の  
するもんだ」といつてみたくなる。

ところで、先日大学二年の弟がやってき  
て、全日本のインカレで名古屋に行くこと小づ  
かいをねだりにやってきた。ほくも大学時代  
ほんの少しヨット部生活をしたものの、そん  
な晴れがましいレースに出たことがなく、弟

にねだられるとついついニヤニヤして、出す  
まいと思っていた小づかいを、やってしまっ  
た。

演劇にくらべると、遙かにその期間も実績  
もないヨットだけれど、弟が演劇よりヨット  
をやっている方がずっと嬉しい。

もつともこんな風に思うのは、どこの親で  
も同じらしく、自分の子供が文化団体に入る  
より運動部に入ることを歓迎しているよう  
だ。

こんな話を女房にしたら、「あなたも年ネ」  
とあっさりかたづけられた。  
(なかむら ひろし・旧四期・公務員)

## 学校生活

小松 俊雄

都心のモデル・スクールから都下のおんほ  
ろ旧兵舎大学へと進んで丸五年。母校の近代  
建築・設備をなつかしめたおんほろ校舎もマ  
ンモス東京の異常なまでの拡大の為か道路が  
完備されるにつれて序々に平家から四階だて  
の建物に変わってきました。

この春に学生生活を終えて新しく社会に出

られた同期の学友諸君も多いことで、長い学生生活から一八〇度回転して社会に出られた感じは如何だったでしょうか。

私もその急転換をした一人です。しかし、長い間の学校生活を離れられず現在も子供たちを相手に依然学校生活を続けています。

思えば現在のように中学校の教員として社会に出ようとは高校時代には思ってもみなかったことでした。卒業後、唯入学を許された大学として学んで来たこの四年間のうちに、旧師範の伝統的な雰囲気によって教育者ということを職として考えるようになりました。

三ヶ月余りですが新しい職場としての学校生活を過してきて感じることは、今までの受動的な学校生活で想像のつかなかったことが意外に多いことです。

教育界も教育内容が著しく変わったりして刻々変動しております。例えば、道徳時間など従来の私達が経験してきた中学校とは大分様子が変わりました。

私の専門教科は数学ですがもっぱら生徒からは体育の教師のように思われています。体育の補教、課外の活動などでもっぱら体育の方に没頭しているからです。

数学は教科の性質上なかなか生徒の中に入

ちとけられませんが。(今後だんだん親しみあする数学になっていくと思いますが) そこで私は現段階では一つスポーツなど体育を通して生徒の中にとけこみ、生徒の心をつかみ、生徒とのふれあいを深めていきたいと考えているのです。

こんな所で役に立つとは思ってもよらなかったのですが幸い高校時代に排球部として合宿までして練習した(受験で追われていた当時の私にとっては唯一の思い出となっているのですが……) お陰げで実に楽しく指導することができます。この点、文京時代に指導して下さった体育の浜松先生をはじめ諸先生方および先輩の方々への感謝の気持ちで一杯です。

現在は一年生四十八名を受け持っておりますが未熟な親爺が大家族をかかえててんでこ舞いといったところです。先日も避難訓練の日時を学級の予定表に掲示してしまったりして大失敗をしてしまいました。とにかく新来教師の私にとってまだまだ無我夢中で楽しみ苦しみを考える余裕すらありません。これが近況です。

最後に、同窓生諸氏の御健闘と我等が母校文京の発展を祈ります。

(こまつ としお・新七期)

## 東は東、西は西

松本 素直

丁度去年の今頃、私はニューヨーク州の田舎でこの同窓会誌に載せる為の原稿を書いておりました。海をへだてた向う側で、日本人の私は何を感じているかと言う事を書くのがその時の私の役目でした。今度は、五年ぶりに帰国した者として、何を一番強く感じているかを書くのが仕事のような事です。

私は滞米中、会う人ごとに、日本人と言う民族は、あらゆる意味で非常にすぐれた民族であると言う事を、自信を持って言い続けて参りました。何一つとして天然資源にもめぐまれているわけでもないのに、日一日と躍進を続けている国は世界のどこにもちよっとみあたりません。私は、自分がその民族の一員である事に限りない喜びを感じておりました。しかし人間とは情ないものです。私が五年ぶりに帰国してみて、身をもって体験した最初の事は、我身にしゅうようにふりかかってくる貧しさでした。たった五年の間に自分



はこれほど変ってしまったのか、と淋しい気持ちにさせられます。自分が物質的に恵まれた生活を体験したと言う事実は、あるいは自分にとつて不幸であったのかも知れないとすら考えたくありません。そう言う意味で、私は私が今後日本人として生きてゆく以上、アメリカと言う国に二度と行きたいとは思いません。——しかし私はもう一度考えます。人間として、物質的にも、もっと恵まれた生活が出来る可能性がある以上、貧しさに親しでし

まい、それに順応してしまふ事が幸福であるとは思えません。アメリカでも豊かな生活をしていけるのは働いている人達である事を私は改めて強調したいと思います。中産階級が豊かである事がアメリカの特徴であり、その中産階級を形作っているのはとりもなおさずアメリカの労働者である事を知る必要があると思います。

精神的にこれだけ豊かな生活の出来る日本人が、物質的にあまりにもみじめにすぎるのは悲しむべき事実です。物質的に恵まれ過ぎているアメリカ人の精神生活の程度をわらう前に、私達日本人にとつて、私達の生活が物質的にもより恵まれる様努力する事が、貧しさの中に生きている事を誇らげに歌う事より

以上に必要なのではないかと思ひます。

(まつもと すなお・新八期)

## Old Good Days

ムカシハヨカッタ

### 中山喜義

昔はヨカッタなどとかバカにデムイじみたことを云いですが、決して老けこんだわけではない。末だ三十には大分間がある。その若い頭で考えても確かに昔の方がヨカッタ。

人間何かにつけ、折にふれ思ひ出すのは学生時代のことだ。僕なぞ考えてみる。これまでの人生の大部分が学校と一緒にある。小学校が六年、中学高校六年、その間に浪人一年をはさんで(一の一年の暗く空虚だったこと)大学四年。おまけに大学卒業すると逆戻りして小学校に通う破目とはなつた。

今度は職員室に座ってお給金をもらう身ではあるが、試験がないだけで気持としては大して変りがない。

その長い学校生活で今考えても一番充実し楽しかったのは矢張り中学高校と過した文京時代だ。

僕が文京へ入つたのは昭和二十一年四月終

戦の翌年だった。当時はまだ六・三制施行前で文京高校は豊島中学と称し、本郷の元町小学校に間借りしていた。敗戦直後のことで物資は乏しく極端な食糧難の時代ではあったが、精神的には時代の空気はむしろ明るかった。大人達は終戦の混迷からまだ脱し切っておらずボンヤリしていたが、僕等子供にとつては凡てが嬉しくて仕方のない時代だった。

日本は新しくなる、もう戦争はしない。『自由』『民主主義』などという言葉が何かよく分らないながらも明るさと希望を表わすような気がしていた。野球は僕等の熱狂の対象として申分なかつた。入学試験の心配は当分はなかつたし、社会科なぞという勉強だか討論会だか、都内散歩だか得体の知れない学科ができてワイ／＼ガヤ／＼やっていた。

クラブ活動も一斎に花が咲くように始つた。自分達で自分の好きなことをやれるというのは楽しいものだ。始めは自分の意見を云い、何事も自発的にやるといふ訓練の全くなかつた僕等も次第になれて来るとともに夢中になつた。僕は今でも文京の演劇部は東京の高校中最高、最良のクラブだと思つている。実際演劇部に入っていなかつたら僕の人生は大分変わったものになつたらう。良き友人もそ

こで得られ、何より協同して創造する喜びを  
そこで得られたのは僕の間形成上非常に重  
要なことだったと思う。

こうした経験は僕だけではない、その後知  
りあった同時代の友人も皆その点では一致し  
ていた。実際男女共学を潔機として自治会活  
動、クラブ活動は何処でも青春のはけ口とし  
て目をみはるばかりの華かさだった。

#### ☆

さて僕はその後十年、今度は大人として今  
の中学生、高校生の生活をみる機会にある。  
幸い学校に籍をおいているので現在の中学高  
校を知る機会は割合多い。そして知れば知る  
ほど今の子供は気の毒だと思わずにはいられ  
ない。

たしかに昔はヨカッタ。

「時代が違うのさ」とすぐ片づけられる  
が、そうだ確かに時代が違う。今は日本は独  
立国だそう。しかも池田さんの口を借りれ  
ば大國なのだそう。年間九割の成長率で発  
展し遠からず所得倍増し、全く民主主義日本  
は万々才。

それなのに大学へ入るのには何十倍の入学  
試験を突破しなければ入れない。更に同じ大  
学でも良い大学に入るには人を押しつけて

も、友達づきあいを不義理にしても猛勉強  
しなければ入れない。クラブ活動なぞ勿体な  
くてやってはいられない。協同の喜びなぞ、  
クソ食ラエだ。更にこの風潮が中学にも小学  
校にもマンエンしている。

僕の勤めている小学校なぞでも出来の良い  
子、家庭の良い子の大部分は家庭教師が学校  
から子供の帰るのを待ち受けている。そして  
日曜日には〇〇進学教室へ通い、順位が五番  
上った。やれ一番下ったと大騒ぎしている。  
これだけ勉強したらさぞ末恐しい秀才になり  
そうだが、ドニューモノカ全り僕等と変らな  
いようです。

只でさえ子供にとってセチガラクなってい  
るのに、今度は全国一斎学力テストなどとい  
うものまで持ち出して頭の弱き、いや強き子  
供らにムチ打つ世の中です。

確かに時代が違います。

ソレニツケテモ一種のエアーパーケットの中  
にいたのかも知れないけれど、僕等の過した  
文京時代は

ヨカッタデス。

(なかやま きよし・旧四期)

## 小商人の足

富田 宏

思うところあって本屋を始めた。僅かばか  
りの手持ちの金に加え、巨額な借金を背負い  
込んで、それでもどうやら店を開ける事が出  
来た。ところが、さっぱりお客様が来て下さ  
らない。勢い、外交に飛びまわり、遠いこ  
ろにある会社などに売り込んで歩かなければ  
ならない破目になった。足は、小さなオート  
バイである。毎日、配達と注文取りに明け暮  
れた。その間、店番はアクビを噛み殺してい  
た。

それでも、小さな店は、毎日夕方になると  
あかあかと電灯を輝かせた。開店して、六カ  
月になった。

或る日、その小さなオートバイは、運送会  
社の大きなトラックにはね飛ばされた。オー  
トバイは無事だったが、乗っている人間の足  
が折れた。足の痛みよりも、明日からの配達  
をどうするかと云う心配が先に立った。しか  
し、いくら心配したところで、はじまらな  
い。ところがそこは良くしただけで、家の連

中が結構その役を果してくれたのは有難かった。それにしても困ったのは月末の支払いであった。歩けさえすれば何とかなる。商人にとって足がないと云う事は、何としても致命的だった。病院の払いもあり、問屋の払いもあり、寝ていても気が気でない。同じ病室に、これも交通事故で入院していたサラリーマンが、つくづく羨やましかった。入院費の心配も生活の心配もなく、お得意を失うのではないかと云う心配も月末の支払の心配もないのが、何よりも羨やましかった。

その月末も、どうやら乗り越える事が出来た。残暑は依然としてきびしく、背中一面にアセモが出来た。大きな病室には、様々な患者が入院し、退院して行った。

そうこうしている中に、季節は夏から秋に移った。足の骨もどうやら、と云うところまで来た。

大きなギブスを巻いて退院した。まだ配達には歩けないが、それでも番番ぐらいは出来た。不自然なギブスの重さにも次第に慣れた。そして、ようやくギブスに馴染んだ頃には、それと別れなければならなくなった。

ギブスのないのが、最初はひどく頼りなかった。しかし、そんな事をいっていられない

のが、小商人だ。小さな商人は足で稼ぐ外ないのだから。

やがて、足の骨のことは忘れるようになった。仕入れがあり、配達あり、集金があり、支払いがある。また、毎日が忙がしくなってきた。

足の方は、軽いビッコを引きながらも、歩分には差つかえないところまで来た。

間もなく冬になる。吹きさらしのオートバイの座席の上は、一足早く、もう冬の寒さになった。(とみた ひろし・新八期)

## 歩いて十分

太田 英博

ふんづけられたり蹴つとばされたり。せつかくおふくろがきれいにみがいてくれた靴がもうだいなし。やがて電車の扉が開く。階段へ殺到する人、人、そして又人。改札口から四方八方へ散ってゆく人、人、そして又人。自分がサラリーマン生活にはいつてもう三年の月日が流れようとしている。毎朝必ず超満員—こんな生やさしい言葉では完全に表現出来ないが—の電車にもまれ、はきだされる頃

にはいいかげんグロッキーになっている。駅から歩いて十分かかるところをかけ足で五分短縮する。交叉点で信号が赤い顔をしていようものならこっちも赤い顔をしてソワソワ。ビルのすべる廊下に靴の音を響かせてエレベーターにのる。「おい運ちゃん、とばしてくれ」っていったってタクシージャないのだからそうもいかない。せめて四階までノンストップで—残念三階でした。どんな美人がおりようと、俺に迷惑をかけるような奴は大嫌いだ。やつと四階。扉がひらく前から足ぶみをしている。それ！ つと勢よくエレベーターをとびだす。部屋にはいつてタイムカードを押す。G...S 今日もう危うくセーフ。どうも御苦勞様。こんなことが一年中、雨の日も風の日も続くのだ。とうとういかに大げさだが、しかし事実に近い。こんな芸当はサラリーマンを除いて他に出来るだろうか。これだけでも月二万円の価値はあるうというものだ。何故なら、今のところまだサラリーマンは人間として存在しているのであって機械の部品ではないのだから。

しかし人間は何年か前から、オートメーション化とか機械化という言葉で口にし、又実行してきたので『万物の霊長』として偉大な

存在であった人間が次第に一つの歯車の代用品となり、小さな存在になりつつある。やがて安全に人間は歯車としての存在に変わってしまうことだろう。そのことが人類にとって、幸いであつたか否か、はつきりするのはいまだだ先のことではないが、それを判断するのは最早歯車に変わってしまった人間ではなく、「電子頭脳とやらが判断するに違いない。そう思うと人間稼業、嫌になる。でもこんなぐちをいっているうちはまだまだ歯車になりきっていない証処であるから、自分は今後もこんなつまらぬ事を考えながら歯車にならないように努めることにする。歩いて十分のところをかけ足で五分にするのも、やはり人間だからであろう。歩いて十分のところを十分で行くようになった時、自分はおそらく質の悪い一つの歯車になりきった時だろうと思つている。だから明日も、あさっても、雨の日も風の日も、来年もさ来年も、歩いて十分のところをかけ足で五分で行こうと思つている。金のある時は昼めしにうな丼を食うが、風邪をひけば、ラーメンでごまかし、昨日ピースを吸つたかと思えば今日はしんせいにおちていることもある。やはりまだ「人間」だからだらう。

明日からまた、いや今日のこの瞬間から、機械との斗いがはじまっている。人間がないチエをしぼって作った機械と争わなければならぬのは、こっけいといえはこっけいだが最早そんなことはいっていられない。いつまでも人間は人間でありたい。こんなはかない望みを胸に抱きつつ、歩いて十分のところを五分で行こう。機械に征服されることと恐れつつ。(おおた ひでひろ・新十一期)

## C · M

### 諸橋 肇

「くどき上手になりたい……」、いえ、大真面なお話なんです。「お芝居や小語だと、よく、物判りのいゝ伯父さんや叔母さんがいて、恋の口説の手ほどきをするんだがなあ……」と私のために嘆じてくれた友人もいます。「どんな女性がいゝんだい？ なんだったらいゝひとを紹介するよ」なんて嬉しいことを云ってくれた友人もいます。いや、みなさん、どうも御親切に、本当に感謝していますよ。でも、私が日夜真剣に思いつづけている相手とは、実は、あなたなんです。「よせ

やい、俺は男だぜ」ですって？ いや、これは失礼、少し表現を変えましょう。あなたが消費者とこう申し上げましょう。そして、テレビやラジオのスイッチをひねると……、新聞や雑誌の頁を開くと……いや応なしに、耳に目に飛びこんでくるコマージュナル・メツセイジャ広告のコピー、これが私のくどき文句なんです。

私は、現在、広告代博報堂に勤務しています。私の仕事はテレビ・コマージュナルの企画制作です。最近でこそマスコミの波にのり、第三次産業のホープ(?)として喧伝される様になりましたが、私が入社した当時は広告代理店と云う言葉は、まだ、耳新しく、「ほう、どんなことをなされる御商売ですか？」とか「ハクホードー？ あゝ、出版社ですわね」てなことを云はれてくさつたものです。

私自身、なんだって、もう少しまっとうな仕事に就かなかつたんだろうと考えたこともあります。でも「テレビに於けるイメエジの特性」なんてことを夢中になって学んでいた私には本當に向いている仕事なのかも知れませんが。秒に追はれ、スポンサーや局との接衝に神経をすりへらし、年中消化不良で働いている広告マン。……「因果な商売だね」、「もう



本当にくたびれたよ」とこぼしながらも、本  
当に好きな仕事のために、私達の仕事が現代  
のトップ・マネージメントとして認められる  
まで頑張ります。何かの週刊紙にありまし  
たっけ広告マンは、仕事に自信とほこりをも  
って働いていると……。

(……巧拙を論じなければ、この章もやっば  
りC・Mになっちまいました。)

(もろはし はじめ・新八期)

## ヨット

### 相原豊治

スベったり、ころんだり、曲り道を歩いた  
り、いろいろやったが、どうやら俗にいう灰  
色の生活からぬけだして今春大学のイスに腰  
をおちつけた。気にくわなかつたらすぐやめ  
てやろう、そう考えて入学したものの、やっ  
ぱり座りごっこそあまりよくないが、ほか  
では味わえないようないい面があり、いまだ  
にその気にならず、毎日学校に行っている。  
なぜまだやめないのか自分でも不思議だが

文京のクラスメートが、この学校に意外に多  
いせいもある。全部で七人ぐらいいるが、み  
んな変わった奴ばかりそろっている。夏休み  
アルバイトに行ったら、年上の女の人にみそ  
められて、どうにかしてくれとボヤいている  
奴、年中赤旗をもってデモに行き、この学  
生は意識が低いから、俺がたたき直してやる  
んだと気炎をあげている奴、一銭のもうけに  
もならないのに新聞の仕事にコツテいる奴、  
授業よりも麻雀の方が大切と思っているのか  
どうか知らないが、麻雀には弱い男など、ど  
れ一人をとつてもマトモな男はいない。でも  
皆んな気の合ったもの同志のせいかよく集ま  
る。

入学したとき、この連中のすすめもあり、  
僕もやりたかったのでヨット部に入部した。  
昔から海が好きだったし、一度でいいから鏡  
のように静かに太陽に照り輝いている海面に  
白い帆をはったヨットに乗りたいというのが  
小さいときからの夢でもあったからだ。

はじめて練習で横浜のヨットハーバーに行  
って、ヨットに乗ったときは感激した。まっ  
白い船体に純白の帆、「すばらしい」といわ  
ずにはいられなかった。しかし表面は大層詩  
的なヨットも、一たびヨット部という名のも

とに入ってしまったと、そこにはそんなものは  
一かけらもなく、ただ男の世界が僕をまっ  
ただけだった。海にしても年中鏡のような  
ときだけとはかぎらず、むしろそんな日は今  
までほとんど経験したことがないくらいだ。  
またヨットに乗っている時よりも、整備とか  
トレーニングの時間の方が長いのである。入  
部して一週間もたたないうちに、僕の小さな  
夢なんかどっか遠くの方に行ってしまった。  
夏ちょっと体をこわしたもので今では休部  
しているが、この間は事故で先輩が一人死  
んだというニュースを聞かされ、海のおそろし  
さということを再認識させられた。突風のた  
めヨットが転ぶくしたのだが、海水が冷めた  
く、そのため溺死したそうだが、事故といっ  
てしまえばそれまでであるが、あまりにもひ  
どい自然の非情さ、敵びしさには、ただただ  
驚くだけである。

(あいほら とよはる・新十一期)

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

# 空想映画

## 小暮又男

学生時代(五、六年前)は後に何も残らない映画は嫌いだった。その場限りの笑いで済ませてしまうことは時間と金の浪費であると決めつけていた、映画はあくまで芸術であり娯楽ではないと自身を強くしぼりあげていた。最近になって映画の娯楽性が頭からではなく肉感として理解出来る様になった、特に東宝特種技術を生かした作品は子供になった様に喜々として観られる。ゴジラ、ラドン、モスラ、と学生時代だったら馬鹿々々しくてとても観ちゃーいられねーって奴だったろう、内容はともかく面白いことだけは確か、この間も世界大戦争を空想映画として三流館のすみっこで観て来た、空想を空想として観ただけだから面白いことは受合だ、所が今頃になってあの映画の部分の思い出して背筋を寒くすることがある。

善良な市民達は常に事故から起きる世界戦

争の危険に晒されている、こう思うと背筋に寒けを感じ、自分のなすすべを知らぬことを悔む、事故ではなく人間の意志による戦争を防げると思うし、防がなくてはならない、戦争を起さない様努力する代議士を選び、自からもデモに参加し署名運動にも協力し出来る限りのことをしている、世界の政治家も我々の考えていることが分らぬ程馬鹿でもなからうし戦争を望んでる奴もいないと信じる。第二次世界戦争迄は戦争を望んでいた資本家政治家が居た、ごろ／＼居た、しかし今現在本当に戦争を望んでいる奴は無い筈だ。原水爆しかも広島に落ちた三千倍もの奴、それを六十秒で世界のどこにでも運べるミサイルこれが存在する以上意志による戦争は無いだろう(お前は馬鹿だあり得ると云う人もいるでしょうが)しかし事故による戦争はあり得る、過去数千年の人間の歴史が事故によりほろびるとは考えてもいやだ、やはり武力均衡による平和は今頃になって感じるとはとほけた野郎だと心ある人は怒るでしょう、申し分けない限りだ、政治に比較的無感な私とて原水爆の問題は人並に心をいためている一人であること確かです。馬鹿ほど人を信じ易いそうだけれど僕は生れてこの方僕の廻りに現れた

人を信じて来た、トランプのダウトでもやらない限り人を疑うことしなかった。だから原水爆が存在してもそれを管理する人がいる限りそれを恐れることはないと思っていた。しかし世界大戦争の中、電気回路の故障から発射ボタンを押ししてしまうシーン、又なだれから起きる爆発事故により点火され爆発寸前になるシーンここを思い出すと、今こうして原稿を書いているこの瞬間にもああしたことがどこかの基地で起きていないとは云えない後六十秒後には東京は蒸発しているかも知れないのだ、子供の成長を楽しみに懸命に働く親、来週のデイトを待つ恋人同志、作品に意欲を傾けている画家、給料日を待っているサラリーマン、平和ではない。武力によらない平和を勝ち取らなくてはならない。

映画のことを書くつもりで書き始めたのだけれど結果は大分違がったようだ、今は一商人として働いている僕が書いている中にこうなってしまう心の動きを誰れでもが持っているのではなからうか。

(こぐれ またお・新七期)

# 同窓会 告知版

## 消息不明者欄

左の方々の消息がわかりません。御存知の方は御一報下さい。なお住所・氏名・勤務先などに異動のあった際は直ちに御連絡下さい。葉書でも電話でも結構です。宛先は文京高校同窓会、電話は(九七)五〇二一九です。(編集部)

### 豊島中学校の部

#### 期組 氏名

一 A 荒木 麟太

池田 洋太郎

飯村起伸(方治)

大山 和男

茅根 信夫

豊田 進

服部 昭二郎

真野 兼昭

三野 輪三夫

渡辺 邦緒

上田 竜夫

北原 大平

久保 創

土屋 多加志

永井 敏雄

西沢 孝一郎

浜名 政昭

#### 一 C

藍原 康裕

四宮 亟

村松 清治

藤江 湧二

林 照雄

稲葉 正伯

井下 忠良

門田 裕雄

亀田 哲雄

中村 義作

富田 康彦

吉野 興博

白倉 和男

加藤 昭二郎

川添 章彦

黒羽 章五

山之内 昭夫

田村 領甫

和田 実

#### 二 A

市橋 俊雄

瓜生 典夫

金子 茂夫

川崎 明

田中 久雄

長尾 望

萩原 明男

福本 道夫

飯塚 昭彦

岡 昌彦

岸野 弘

小嶋 宗康

小林 茂夫

田中 和夫

中川 猛

中村 久

松本 公人

本橋 久徳

矢野 拓雄

#### 二 C

山本 耕成

宮崎 辰雄

井上 雅方

大島 吉久

大塚 重治

片倉 章由

加藤 守次

河野 義典

国元 泰治

小松原 茂雄

佐藤 博太郎

杉田 昭三

永井 健次

矢崎 正躬

安達 利治

飯島 博文

石川 末男

大木 定直

大原 良方

紀井 武

田川 文雄

田辺 量三

永井 孝良

深沢 英一

吉成 清人

#### 二 E

大田 秀穂

石塚 忠行

遠藤 義信

神谷 明

小泉 勝弘

佐々木 実

鈴木 篤

芹沢 昭雄

田中 実

谷岡 達男

田村 善雄

都留 和郎

寺村 重道

国時 匡夫

西海 秀夫

野村 雅俊

浜岡 俊彦

浜田 昭三

林 得太郎

深沢 省三

松本 肇

山崎 英世

渡辺 英修

荒木 欣一郎

阪本 英一

#### 三 A

三B

幡井英一	橋爪滋	長倉昭	佐野良輔	桜井昭彦	群司宗戸	木村太三郎	猪俣宏	池田雄彦	杉山武二	田辺吉郎	山内義弘	森木恭次	久富昭昌	春名祥造	佐藤博睦	坂野博道	坂田吉春	江頭英三	田津井康雄	小西一光	宮津明柏	永野明夫	吉田豊	斎藤宗雄
------	-----	-----	------	------	------	-------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-----	------

三D

三C

高橋義郎	関美代治	白石佳正	岡村純茂	細田純生	渡辺一夫	矢島功三	伊藤寛	佐藤有通	藤谷敏明	野口弘	塚原定	鈴木武敏	杉山貴一	木村駿	黒沢亮一	岡本篤	大森泰弘	海野景昭	新井康弘	浅野久雄	舟生蘆	小谷好治	吉田孝正	宮脇理
------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	-----	-----	------	------	-----	------	-----	------	------	------	------	-----	------	------	-----

一A 文京高校の部

四C

四B

四A

三E

鈴木幸雄	久保昌樹	江角金次郎	堀和幸	早乙女政一	牝井高之	酒井孝郎	横田恒夫	鱒沢恒夫	岡部恵一	栃木洋一郎	大倉竜男	白井良一	中村敏夫	友成忠臣	小倉茂次	三輪久夫	塚原庸太郎	近藤親夫	小林昭一郎	青木一郎	岡山恒夫	原実	竹田晶
------	------	-------	-----	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	----	-----

二D

二C

二B

二A

吉野平吉	堀内勝彦	北田豊督	江崎勝之助	笠原春雄	吉沢潔	柳沢喜直	楠瀬友也	三井陽一郎	長繩源太郎	生井一男	鈴木豊	佐藤正人	小泉佳孝	本間健三	藤井初郎	幡野富夫	田村光磨	高橋善一郎	杉浦三郎	佐藤裕	斎藤照夫	山本善夫	望月太海	最上誠太郎
------	------	------	-------	------	-----	------	------	-------	-------	------	-----	------	------	------	------	------	------	-------	------	-----	------	------	------	-------

三E

三D

三C

三B

三A

内藤日出夫	青柳吉昭	横田弘毅	山岸敏将	田口瑞穂	木内実	大淵信一	中村雄侯	田沢俊男	関沢修	河野正通	川内統雄	大河内俊夫	結城功	山沢夫司雄	篠宮和也	小泉重雄	藤田禄太郎	平田章雄	長田清治	阿部存一	神坂栄治	龟谷正男	大沢一朗	東幹男
-------	------	------	------	------	-----	------	------	------	-----	------	------	-------	-----	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----



## 編集後記

タバコを常用する卒業生が三千人居ると仮定する。平均して一日にピース一個分とする。と一日十二萬圓のものが煙と消えていく、私が昨年と今年紫筍の編集を担当して使った費用が丁度十二萬圓、まあタバコでも一本どうですか、通常見かけることだがこうして行き来するタバコを金額に直して見ると大変な金額になる。会計報告の所でご覧になった通り、新期加入の三百余名の人々の入会金が主な財源である文京の同窓会は貧弱な財力を持って運営されている、日毎に煙になっていくタバコの金額と思えばたかの知れたお金であるけれど、財力の貧弱な同窓会に取って見れば大変貴重な金額であることに間違いない、と思つてこの二年間編集に当り出来る限り内容のあるものを造りたいと努力して来たつもりです。しかし時間と予算に限界があつて見れば取材の範囲、写真の数にも限界がある、企画の際は一流誌並の企画を持つて始めるのだが出来るものはご覧の通りのもの……

私達はこの二年の間にこの紫筍に対して六萬圓の寄附をしました。平均して十人の編集部員が一人四十時間以上を編集に費しているので延時間四百時間になり単位時間百五十円とすれば六万円になるわけ、私達は編集部員と云う名のもとに（これは同窓会幹事全員に云えることでもある。）何故これだけのことをしなければならぬかと考える時、私は編集の仕事を投げだしたくなり、煙と消えて行くタバコが恨めしくなる、又同窓会そのものの存在もおかしくなる。

来年から同窓会が無くなり紫筍が無くなつていいとは決して思わないより発展した同窓会より立派な紫筍が出ることを願うことは誰れにも負けない、でも今年と同じことが繰り返えされればまた同じことを考える人がいると思ふ。原稿がどつきり予算もたつぷり、紫筍の発行はまだかと催促される様な状態で編集するようになりたい、そしてらタバコも恨めしくないだろうし、費した時間を換算するようなミューチャイ考えも浮ばないだろう。皆さん今から来年の紫筍には俺の私の原稿をどしどし学校宛に送つて下さい。更に総会には是非出席して旧交を……。思つたまゝ 榎本

# 各種印刷一般

株式会社 啓文堂

東京都文京区諏訪町四七番地  
電話 〇四 四三 七番

文京高校同窓会報第六号

紫 筍

昭和36年11月15日 発行

発行 編集 文京高校同窓会編集部

印刷所 株式会社 啓文堂

御商用に御家庭用に

経済・性能・デザインすべて優秀な

ダットサン ブルーバード  
ライトバン・トラック

ニッサン セドリック を

新車・中古車の御購入，運転免許のとり方など，なんでもお気軽に御相談下さい。

宮 津 栄 (豊島中  
1期C)

東京日産自動車販売株式会社豊島営業所  
豊島区西巣鴨1の3277  
(971)代1126・(982)代2156

弁 護 士 旧1期A組

渡 辺 剛 章

文京区西片町10  
(921) 2989・7704